

【大学等・一般の部】 最優秀賞 (大分県教育の日推進会議会長賞)

母からの贈りもの



大分市 山田 もみじ

今までいろんな贈りものをもらいましたが、私にとって一番の贈りものは“名前”です。学校や職場で「山田もみじです。」と自己紹介すると、必ず、「珍しい名前だね。」「いい名前だね。」と言われます。

生まれた当時、周囲と比べると個性的な名前だったため、祖母は“もみじ”という名前をつけることに大反対したそうです。母にとって祖母は自分のお母さん。親の反対を押し切って名づけることは、とても勇気の要ることだったと思います。もし私が母の立場だったら、親が反対しているのなら、と考え直したかも知れません。自分の考えを守り通すことの大切さを、母は私が生まれた時から教えてくれていました。今、それは私の信念です。普段はなかなか言えないのですが、母には感謝しています。

数年前、受診のため私が生まれた病院に行きました。受付に保険証を提示すると、それを見ていた看護師の方が「もみじちゃんでしょ!大きくなったねえ。」と話しかけてくれました。なんと、私が産まれた時にお世話してくれた方だったのです。産まれた時のことなのでまったく記憶していないのですが、あれから二十年以上経っているにも拘わらず、私を覚えていてくれたことにびっくりしました。名前が珍しかったので、印象に残っていたそうです。なんだか恥ずかしい気もしましたが、とても嬉しく思いました。

診察の際も、私をじっと見た先生が、「もみじちゃんね。久しぶり。」と言いました。その方は、私を取り上げてくれた助産師の先生だったのです。私はこの先生に取り上げられて産まれたんだと思うと、感動のような、不思議な感情を覚えました。

毎日たくさんの赤ちゃんを取り上げる助産師の方が、その子のことを二十年以上も覚えていることはほとんどないように思います。そう伝えると、先生もまた、私の名前が印象的だったので今でも覚えていたのだと言っていました。

その後も病院を訪れると、皆さんが「あら、もみじちゃん、どうしたの?」と声をかけてくれます。自分が産まれた場所で、それを見届けてくれた方々が声をかけてくれるので、「ただいま」と言いたくなります。そんな気持ちになるのも、母がつけてくれた名前のおかげです。本当に貴重な体験をしました。

もう一つ、母がくれた素敵な贈りものがあります。家の庭に植えられた紅葉の木です。私が生まれた時、一緒に成長するようにと植えたのだそうです。その話を教えてもらった時は、誇らしい気持ちになりました。そういう粋なはからいは、母らしいと思っています。とても嬉しかったので、よく自己紹介の際にそのエピソードを話します。インパクトがある名前とエピソードなので、全員一度で私のことを覚えてくれます。それが私の小さな自慢。

名前は、生まれて初めてもらう、大切な贈りものだと思います。私の名前が“もみじ”でなかったら、私は今の私ではなかったでしょう。初対面で緊張している時も、私が名前を名乗ると空気が明るくなるし、“特別”な感じがして、自信につながります。思い返せば、いつも名前が私を後押ししてくれました。これからも母がくれた名前を大切に、自分らしく生きていきたいと思っています。

